八雲町郷土資料館農機類標本台帳

一般名称: 手押集束式稲刈機

現地の通称:

資料種別: ◉ 製品−実物 ○ 製品−レプリカ ○ 製品−模型 ○ 製品図面 ○ 写真等 ○ 図書掲載 ○ その他

資料種類: ☒ 人力用具 ☒ 手押式 ☐ 耕耘用 ☐ 調製用
☐ 畜力用具 ☐ 乗用式 ☐ 施肥播種 ☐ 施設類
☐ 原動機具 ☐ 牽引式 ☐ 管理用 ☐ 機素
☐ トラクタ具 ☐ 定置式 ☒ 収穫用 ☐ その他

管理プレートNo.

台帳No. Y146

相手先番号等

統一分類記号

製作者・会社: 不明

製造市・国名

製造年_購入年,標本収集年

使用目的・使用方法等

茎稈作物や草類の収穫は、鎌（かま）による刈取り法が古くから広く行われ、わが国の唯一の刈取用具として使途別に多様に分化発達した。明治末期に稲用の稲刈り鎌が登場すると、たちまち全国に広まった。特に水稲は、完熟籾でも高水分で刈取り後に架干などの乾燥(今日では生脱穀して人工乾燥する方式で問題ない)が必要なため、10株程度をまとめて小束に仕上げる必要があった。ようやく第2次大戦後に標本のような人力刈取り機が登場すると、腰を屈めての長時間労働から解放されるとして急速に広まった。本機は、稲刈り鎌の刃面をＶ字型に配置し、手押しすると株を連続して刈り、筐体内に株が集まるから、 →続く

利用経過収集記録意義等

約10株集まったらレバーで支持して地上に倒す作業法である。しかし、単純な押切のため婦女子には重すぎて不評となり、間もなく登場したティラ類のアタッチメントして稲刈倒し機、続いてカードＹ147に記載するバインダに発展し本機の利用期間は短期に終わった。

仕様書_解説等

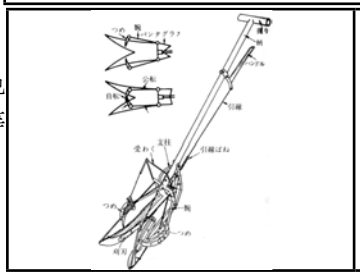
資料の仕様調査未完

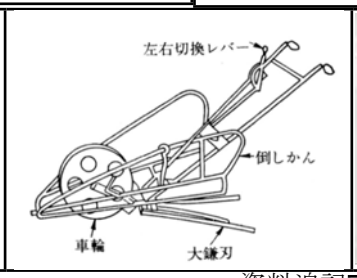
全体図 収納状態

関連図 1：手押集束式稲刈り器
2：刈倒し型稲刈り機
3：刈り倒し型稲刈り機
4：鎌による人力稲刈り

右に全体図

外観特色関連図等





資料の所在

展示場付属倉庫

資料追記事項

資料管理経過

作業メモ追記文

農業機械学会北海道支部「農機DB作成委員会編